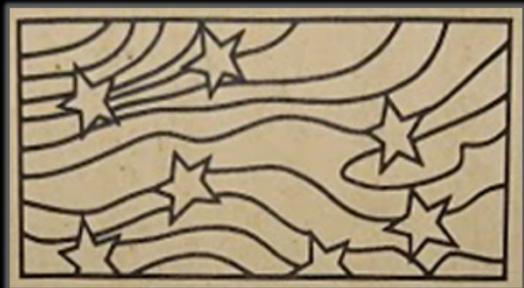
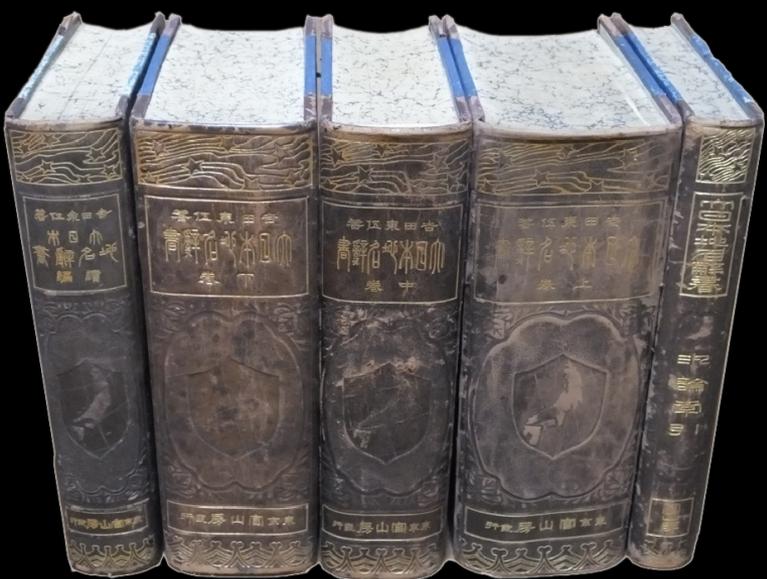
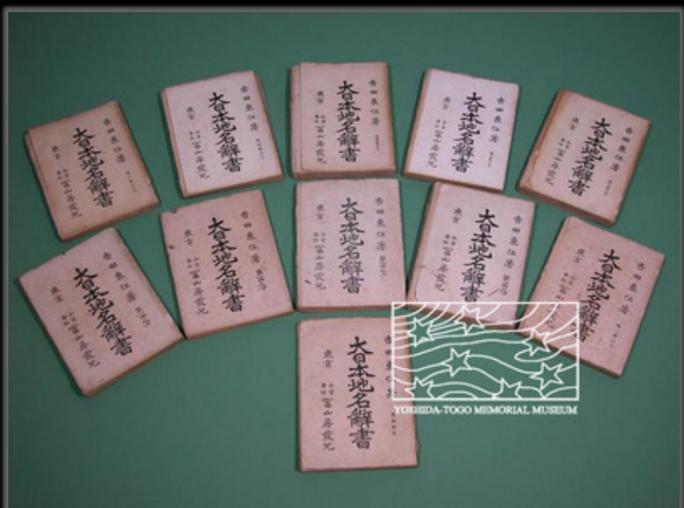


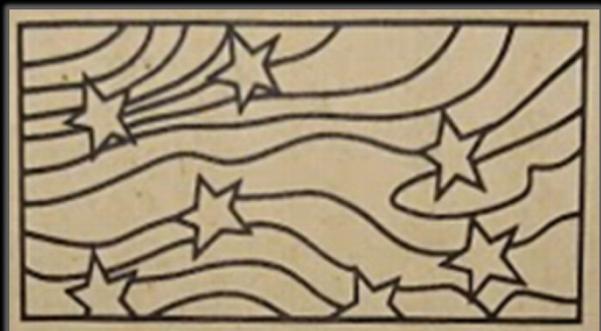
大日本地名辞書  
七つ星に隠された暗号



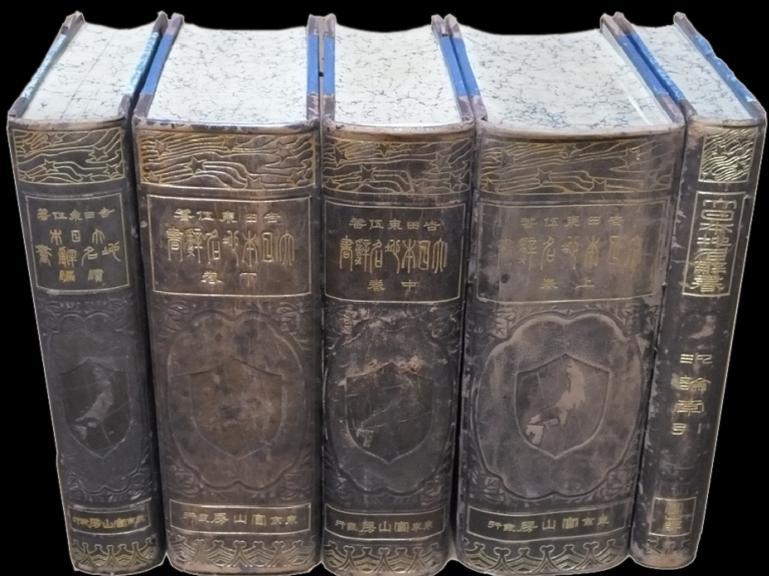
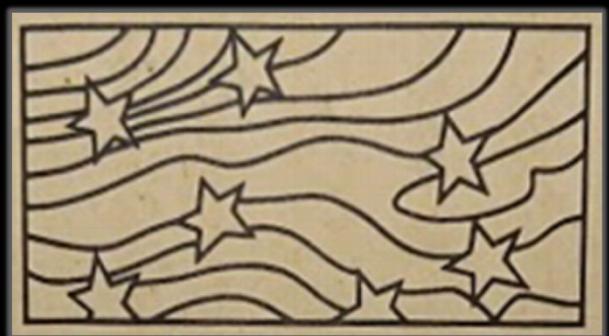
大日本地名辞書の背表紙  
を飾る、七つ星。

初版（写真上）の分冊から合冊  
本となった、明治四十年の第二版  
から採用されています。





背表紙の下側には波模様が、  
また初期の頃には中心に日本列  
島が描かれていました。  
天に当たる部分が星なのはな  
ぜでしょう。デザイン的にはむ  
しろ太陽を描くほうが無難な感  
じです。



この七つ星については、解説された資料や口伝もなく、長い間その意味は不明でした。

特に七つ星に該当する星座が特定できないことから、手がかりがつかめないとされてきました。

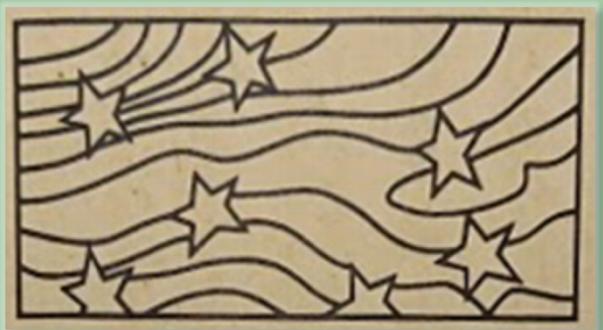
これからその謎を解いていきましょう。

## 重要ポイント

- ★ 七という数の意味とは
- ★ モチーフにした星座は何か
- ★ 隠された暗号とは
- ★ 江戸時代に使用された中国の「二十八宿」との関係

七つの星と波模様は何を表すのか。

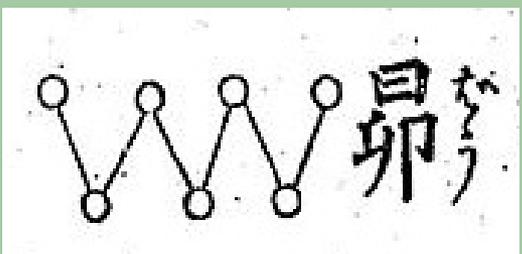
デザインでまず目を引くのが、七つの星と背景の波模様です。  
波模様はおそらく天の川であろうことは容易に想像できます。



そして星座や星団で「七」と言えば、北斗七星と昴（すばる）があります。しかし、北斗七星は色々という意味を探りましたが、地名辞書に繋がるような故事や神話は見つかりませんでした。天の川とも関係ありません。

一方、「昴」はどうでしょう？  
昴は和名を「六連星（むつらぼし）」といいます。

和名は六連星でも、ギリシア神話では七人姉妹とされ、中国の二十八宿ではも、昴は七つで構成されています。（左下図）



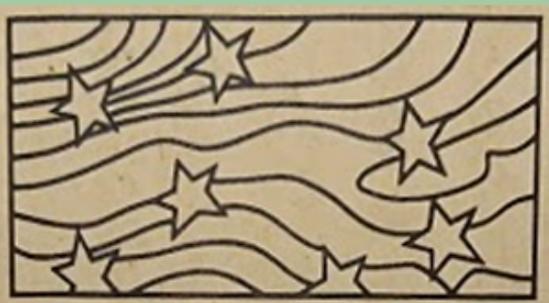
## 昴の持つ意味

「昴」の語源は、集まって一つになる、統一される。統ばる、すまる、です。

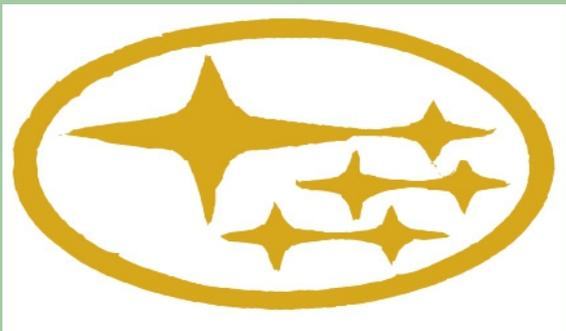
日本初の全国的地誌として地名を集約した「大日本地名辞書」に通じます。



なお、古代と現代では、個々の明るさが違います。ギリシア神話の昴の七個は赤丸部分です。  
これだと、デザイン的には違いますね。



ただ世間には、正確な配列に関係なくスバルと言い切るデザインもあります。あまりこだわる必要はないかもしれませんが、もう少し探っていきましょう。

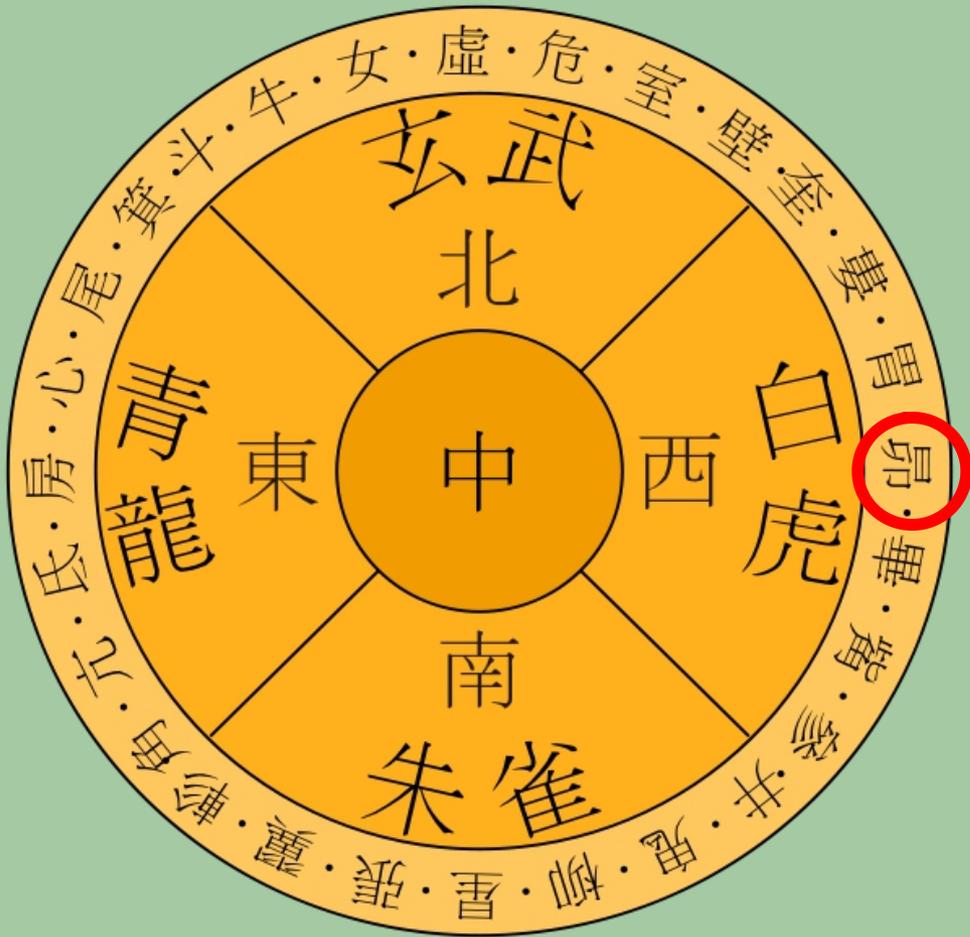




その昴は天の川の中にはありませんが、天の川に一部かかる牡牛座に属しています。

しかし、牡牛座は西洋神話の星座です。

謎を解くうえで『二十八宿』を重視するのであれば、昴は単独の星です。昴だけでは天の川に関係ありません。



出典: ウィキペディア

ただ、吉田東伍の唯一の天文に関する書物である『星のかずかずかきつけぬ』の中で、「漢土の人二十八宿を以て（中略）泰西の人八十宿を以て」との記述があります。

中国では星座の数は二十八、西洋では八十であるという意味です。

東伍の西洋天文学への造詣を考慮すると、七つ星の謎を解くうえで、牡牛座も重要な判断材料となります。

漢土の人二十八宿を以て節を分つ泰西の人八十

宿を以て經緯を分つ其他天球を思眼  
て北半疎より三十より南半疎より三十より二  
宿内より一より二宿位の内毎に其の宿を以て  
其の大小多寡あり或數十或十數を以て一と  
わすし宿名は皆諸れを其の宿に附し宿名を以て

昴と牡牛座にはもう一つ、興味深いことがあります。東伍の生年月日は、元治元年四月十四日ですが、これは旧暦のものです。

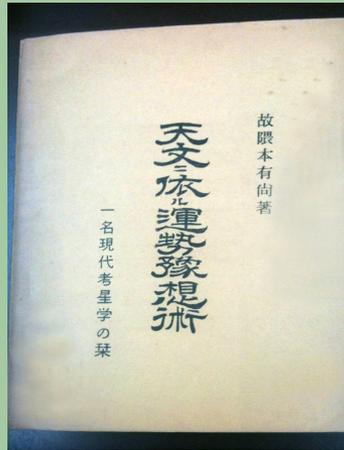
東伍が九歳のとき、明治政府は正式に太陽暦を採用します。太陽暦では、東伍の生年月日は元治元年五月十九日になり、これは西洋占星術では「牡牛座」になります。昴の属する星座です。

しかし、西洋占星術について、東伍はどこから知識を得たのでしょうか。

西洋占星術は平安時代に日本に伝わったものの、次第に廃れていきま

す。  
日本に再び西洋占星術が蘇ったのは、大正三年（一九一四）に隈本有尚（くまもとありたか）が著した『天文二依ル運勢予想術』からです。  
地名辞書に星が採用されたよりもずっと後のことです。

出典：一期一名



出典：ウィキペディア



隈本有尚著『天文二依ル運勢予想術』



写真出典:『小伝 吉田東伍』

つまり、地名辞書発刊当時は、西洋占星術に関する日本語の書物も占い師も皆無で、そこから東伍が生まれ星座を知る由はありません。

しかし、東伍は十二歳のときに新潟英語学校に通っており、先生は英国の女教師でした。

英国は十七世紀から続く西洋占星術の中心地です。現在でも専門学校があり、多くの老若男女が占星術師を目指して勉強しています。

東伍が九歳のときに太陽暦に変更されていますから、十二歳のときに学校でそんな話題になっても不思議ではありません。

「私が生まれた英国では、  
あなたの星座は牡牛座よ」  
（あくまでも想像です）  
東伍、

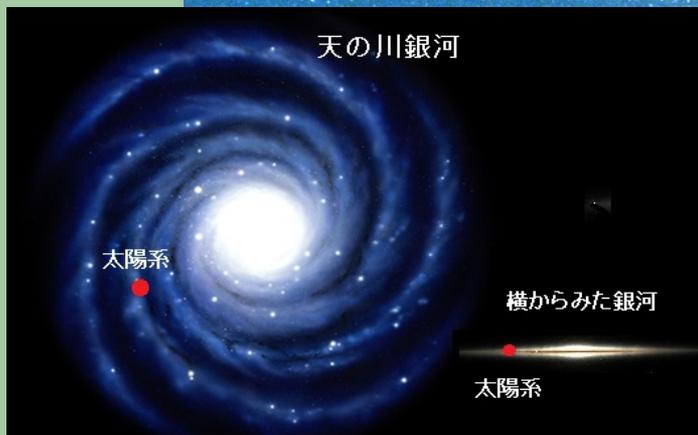
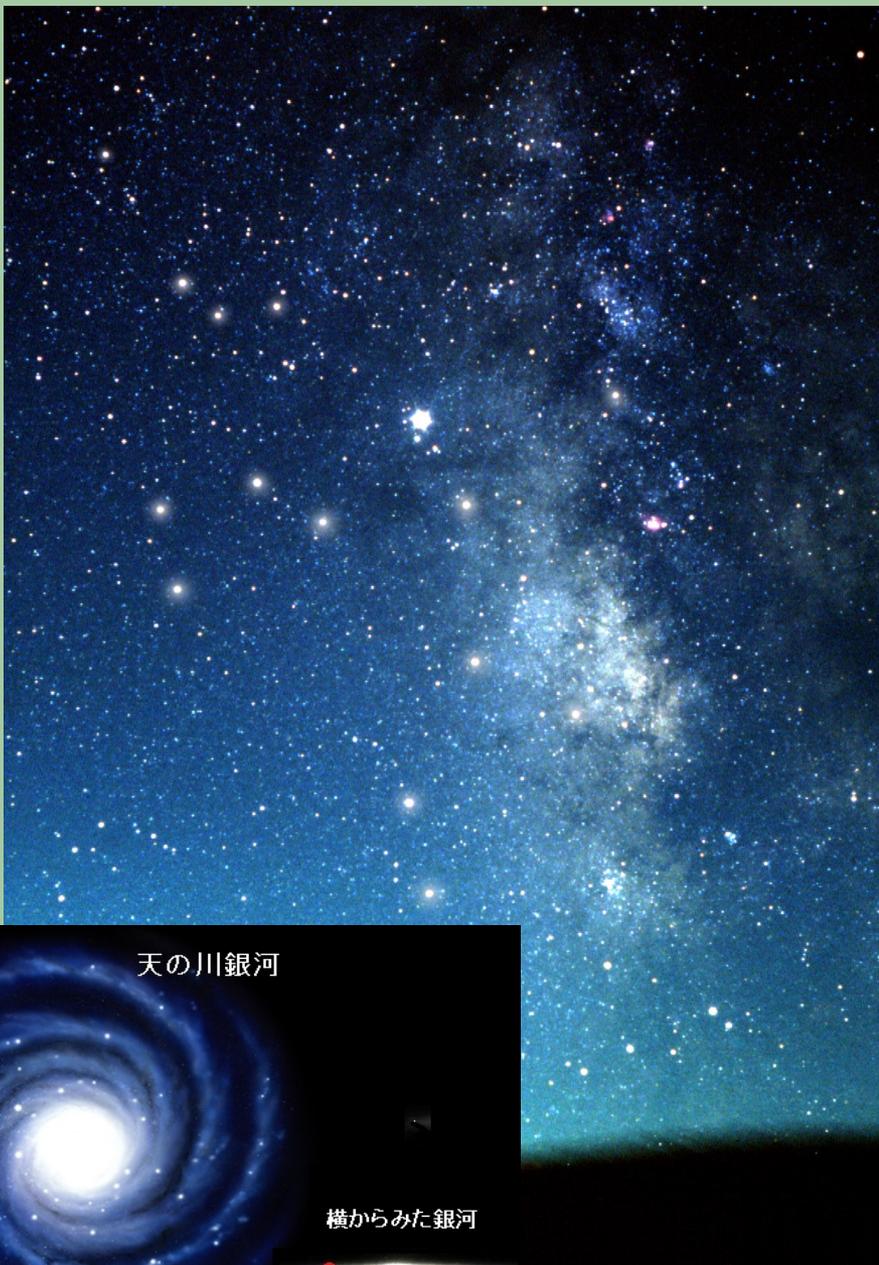
そのことを覚えていた東伍が、自分の生まれ星座に属する昴の語源（統一する、など）が、地名辞書にぴつたりだと気に入り、そこから発想を膨らませていった、という可能性は十分考えられます。配列は単なるデザインと割り切れば、地名辞書の七つ星は「昴」ということで結論づけても良さそう？

でも、もう少し他の可能性も考えてみましょう。

もし昴ではないとしたならば、ほかに天の川に関係した星座は何か、ということになります。

天の川に關係した星座は何か。

天の川に關係した星座で代表的なのが射手座です。射手座は天の川銀河の中心方向に位置します。中心部は特に明るく輝いています。



牡牛座と同様、射手座は西洋の星座です。

中国の二十八宿では、射手座は斗宿の斗と箕宿の箕という別の星官（星座）に分かれます。

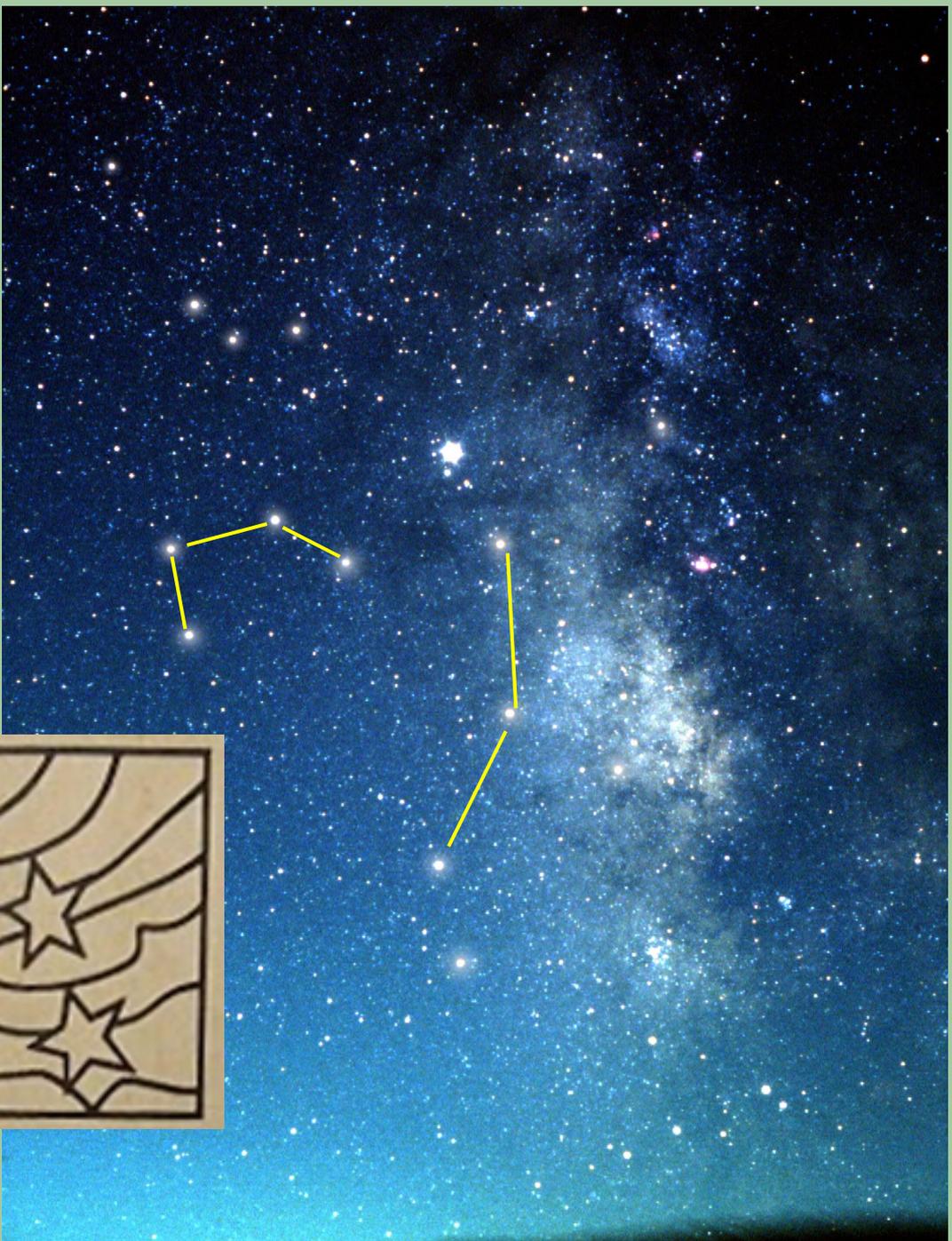
斗宿には十の星官（星座）があります。



斗を構成する星は6個、箕は4個。もし地名辞書の七つ星が昴ではなく、斗または箕であるとするならば、星の数が合いません。

しかし東伍は西洋、東洋にこだわらず、幅広い知識や経験の中から意味をもたせることで、より複雑な暗号を仕込んだと思われます。

つまり、「斗」を含んだまま、デザイン的には射手座の一部の七個を切り取った、と思えるのです。



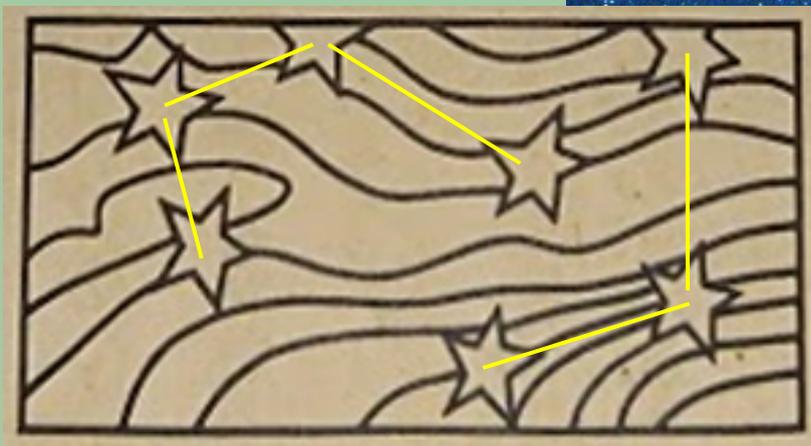
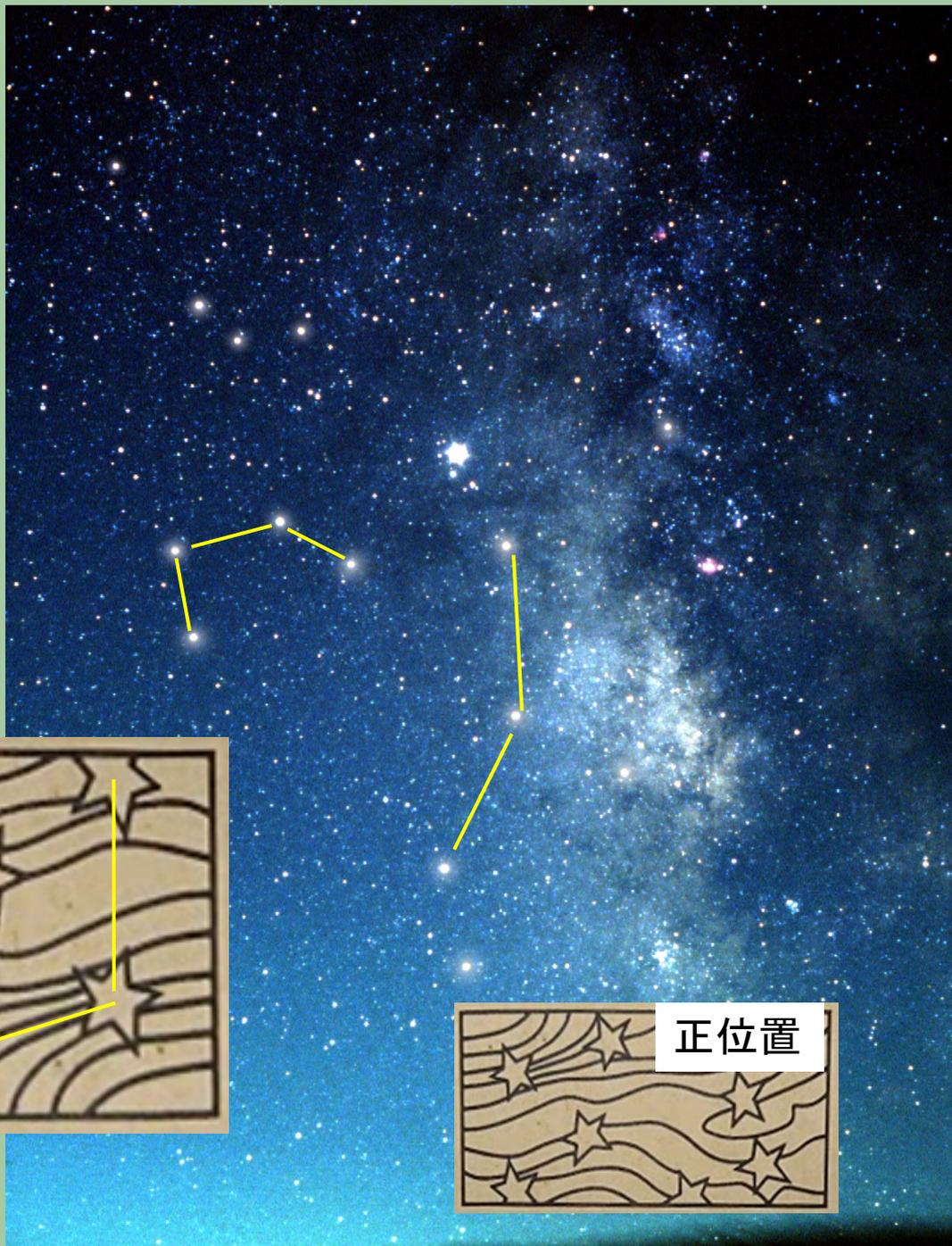
星の配置は射手座に  
酷似していますね？

え？似てない？（汗）

では、下の図案の天  
地をひっくり返してみ  
ましよう。

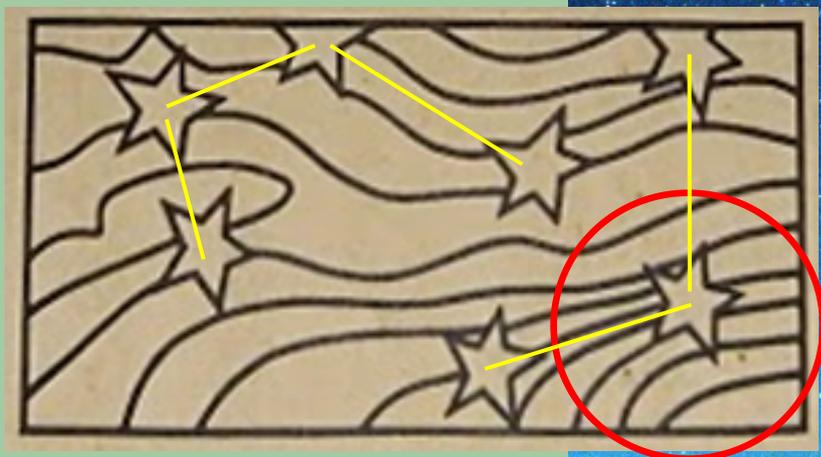


こうすると似てます  
よね？  
右の3つの星は少し  
コンパクトにしないと  
収まりませんが。



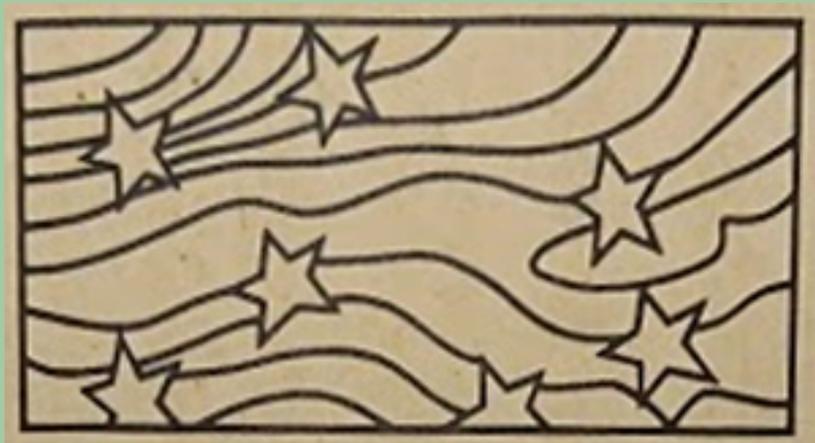
正位置

また、波模様と銀河の密度にもご注目ください。  
右端の星のあたりが密度が濃いですね。

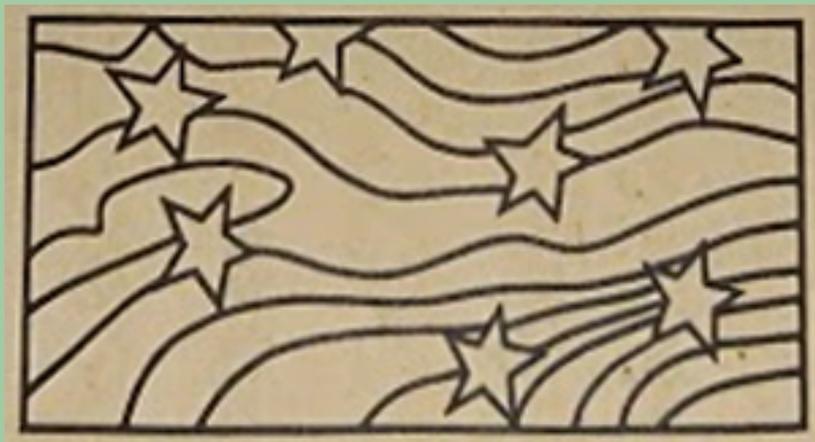


この配列と天の川の中心部との一致は、かなり射手座の可能性が高いです。





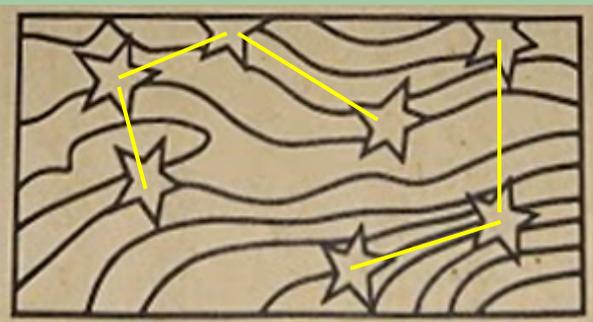
正位置



逆位置

このように、デザイン的には射手座で間違いないと思います。逆さまにしたのは、地名辞書が天文学書ではないため、何座であると分からせる必要はないからでしょう。

あるいは射手座と気付かれないように、あえて逆さまにしたのかもしれない。せん。自分だけの秘密として…。



果たして、牡牛座の昴なのか、  
射手座なのか？

実は「どちらか」ではなく、  
「どちらも」なのです。

ある意図をもってこの二つを組  
み合わせたのではないか、という  
のが今回の結論です。

ここまでのことを整理します。

①七つの星は「昴」

集まっつて一つになる、統一される

「統ばれる、すまる」が語源

属する牡牛座は東伍の生まれ星座

②全体のデザインは、斗を含む射手

座がモチーフ

③この二つを組み合わせで、ある意

味を持たせた

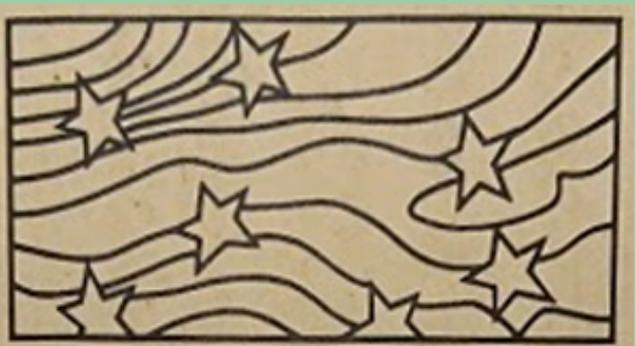
④射手座と気づかれないうよう、逆さ

まに配置した。

そして、昴と射手座（斗）の組み

合わせには、暗号ともいえる秘密が

隠されていました。



## 昴と射手座が示すもの

再び中国の二十八宿に目を向けてみましょう。

江戸前期の天文暦学者・渋川春海（一六三九〜一七一五）による貞享二年の改暦で、暦注も中国流の二十八宿に変更されました。

暦注とは、暦に記載される日時・方位などの吉凶、その日の運勢などの事項のことです。当時は天文、暦、風俗が一体になっていました。

	宿名	訓読	距星	吉凶
東方青龍	角宿	すぼし	おとめ座α星	着始め・柱立て・普請造作・結婚に吉。葬式に凶
	亢宿	あみぼし	おとめ座κ星	衣類仕立て・物品購入・種まきに吉。造作に凶
	氐宿	ともぼし	てんびん座α星	結婚・開店・結納・酒造りに吉。着始めに凶
	房宿	そいぼし	さそり座π星	髪切り・結婚・旅行・移転・開店・祭祀に吉
	心宿	なかごぼし	さそり座σ星	祭祀・移転・旅行・新規事に吉。造作・結婚に凶。盗難注意
	尾宿	あしたればし	さそり座μ星	結婚・開店・移転・造作・新規事に吉。着始め・仕立てに凶
	箕宿	みぼし	いて座γ星	動土・池掘り・仕入れ・集金・改築に吉。結婚・葬式に凶
北方玄武	斗宿	ひきつぼし	いて座φ星	土掘り・開店・造作に吉
	牛宿	いなみぼし	やぎ座β星	移転・旅行・金談など全てに吉
	女宿	うるきぼし	みずがめ座ε星	稽古始め・お披露目に吉。訴訟・結婚・葬式に凶
	虚宿	とみてぼし	みずがめ座β星	着始め・学問始めに吉。相談・造作・積極的な行動に凶
	危宿	うみやめぼし	みずがめ座α星	壁塗り・船普請・酒作りに吉。衣類仕立て・高所作業に凶
	室宿	はついぼし	ペガサス座α星	祈願始め・結婚・祝い事・祭祀・井戸掘りに吉
	壁宿	なまめぼし	ペガサス座γ星	開店・旅行・結婚・衣類仕立て・新規事開始に吉
西方白虎	奎宿	とかきぼし	アンドロメダ座κ星	開店・文芸開始・樹木植替えに吉
	婁宿	たたらぼし	おひつじ座β星	動土・造作・縁談・契約・造園・衣類仕立てに吉
	胃宿	えきえぼし	おひつじ座35番星	開店・移転・求職に吉
	昂宿	すばるぼし	おうし座17番星	神仏詣で・祝い事・開店に吉
	畢宿	あめふりぼし	おうし座ε星	稽古始め・運搬始めに吉。造作・衣類着始めに凶
	觜宿	とろきぼし	オリオン座λ星	稽古始め・運搬始めに吉。造作・衣類着始めに凶
	參宿	からすきぼし	オリオン座κ星	仕入れ・納入・取引開始・祝い事・縁談に吉
南方朱雀	井宿	ちちりぼし	ふたご座μ星	神仏詣で・種まき・動土・普請に吉。衣類仕立てに凶
	鬼宿	たまおのぼし	かに座θ星	婚礼のみ凶。他の事には全て吉
	柳宿	ぬりこぼし	うみへび座δ星	物事を断るのに吉。結婚・開店・葬式に凶
	星宿	ほとおりぼし	うみへび座α星	乗馬始め・便所改造に吉。祝い事・種まきに凶
	張宿	ちりこぼし	うみへび座ρ星	就職・見合い・神仏祈願・祝い事に吉
	翼宿	たすきぼし	コップ座α星	耕作始め・植え替え・種まきに吉。高所作業・結婚に凶
	轸宿	みつかけぼし	からす座γ星	地鎮祭・落成式・祭祀・

出典: ウィキペディア

これは二十八宿一覧です。  
 注目の「斗宿」と「昂宿」は赤枠で  
 囲ってあります。  
 吉凶は、斗宿が「土掘り、  
 開店、造作  
 に吉」、昂宿は「神仏詣で、  
 祝い事、開  
 店に吉」とあります。

さて、東伍は二十歳前後の頃から、名前の東を日と木に分解し、**日木生**と名乗ることがありました。

# 東

この日木生というペンネームことを私が知ったのは、この研究発表会の件で博物館を訪れたときのことです。

職員の渡辺文男さんに「理由はわかりませんが、七つ星をひっくり返すと射手座に似てますよ」と話したら、「東伍は東を分解して日木生と名乗るなど、いろいろ仕掛けをする人だから、ひっくり返すことも十分考えられる」とアドバイスをいただきました。

この日木生が後々、重要なキーワードになるとは、そのときは全く想像もできませんでした。

曆注の表です。  
貞享二年正月朔日（ついたち）を星宿とし、以降、左表のサイクルが繰り返されます。

	月	火	水	木	金	土	日
申子辰	畢	翼	箕	奎	鬼	氏	虚
巳酉丑	危	觜	軫	斗	婁	柳	房
寅午戌	心	室	参	角	牛	胃	星
亥卯未	張	尾	壁	井	亢	女	昴

出典:ウィキペディア

本文引用: ウィキペディア

注目の「斗」と「昴」はここですが、  
何かに気がつきませんか？  
東伍は日木生と名乗っていたことが  
ありましたね。

	月	火	水	木	金	土	日
申子辰	畢	翼	箕	奎	鬼	氏	虚
巳酉丑	危	觜	軫	斗	婁	柳	房
寅午戌	心	室	參	角	牛	胃	星
亥卯未	張	尾	壁	井	亢	女	昴

出典:ウィキペディア

ます。そう、  
昂と斗で**日木**生になり

	月	火	水	<b>木</b>	金	土	<b>日</b>
申子辰	畢	翼	箕	奎	鬼	氏	虛
巳酉丑	危	觜	軫	<b>斗</b>	婁	柳	房
寅午戌	心	室	參	角	牛	胃	星
亥卯未	張	尾	壁	井	亢	女	<b>昂</b>

出典:ウィキペディア

地名辞書にふさわしい「集まっ  
て」になる、統一される「意味の  
「昴」と、デザインモチーフとな  
った射手座の一部「斗」との組  
み合わせにより、東伍自身が  
浮かび上がってきました。



出典: Aucfree

	月	火	水	木	金	土	日
申子辰	畢	翼	箕	奎	鬼	氏	虛
巳酉丑	危	觜	軫	斗	婁	柳	房
寅午戌	心	室	參	角	牛	胃	星
亥卯未	張	尾	壁	井	亢	女	昴

吉田東伍記念博物館の開館以来、来館者からは「星はどういう意味ですか？」という質問が多く寄せられてきたそうです。

今でも多くの人が疑問に思うわけですから、地名辞書が発刊された当時は、東伍に直接、その疑問をぶつけた人も多かつたでしょう。

しかし、東伍はその意味を公表するようなことはありませんでした。

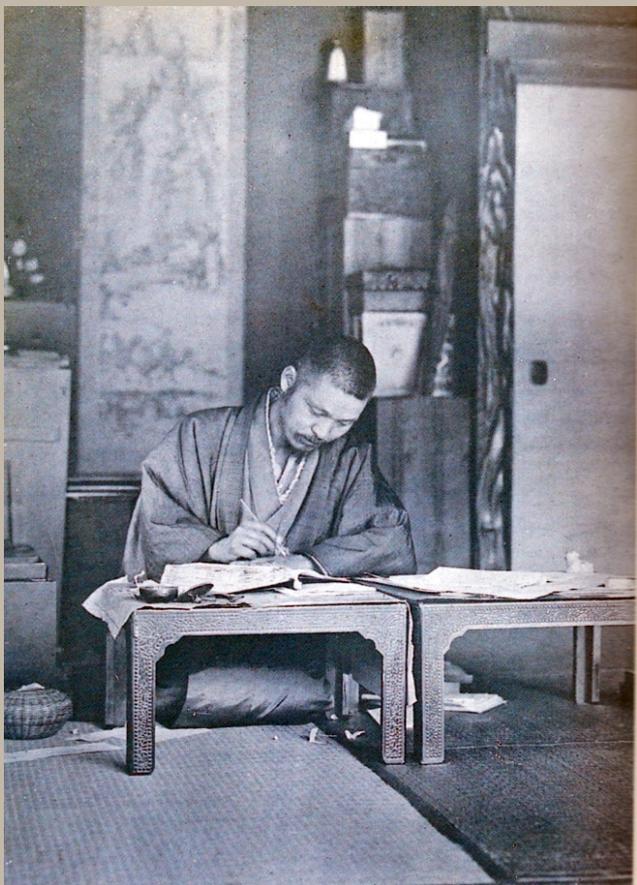
これはこの七つ星がシンボルマークではないことを示していると思われません。

通常シンボルマークなどには、理念や理想などの意味をもたせます。これらは公表することで、多くの人に理解を深めてもらうことができます。

しかし、地名辞書の七つ星は、辞書の理念やPR目的ではなく、東伍自身でした。

むしろ、これは地名辞書に押された落款のようなもの、と言えるかもしれません。

ですから、あえて意味を公表する必要がなかった、と思われれます。



出典：『小伝 吉田東伍』

足かけ十三年間にも及ぶ壮絶な執筆活動の末に書き上げた前人未到の超大作『大日本地名辞書』

「悪戦僅に生還するの思いあり」

序文に記された言葉です。まさしく命を削りながら完成させた大日本地名辞書は、彼の多くの著作物の中でも、特に思い入れの強い存在だったに違いないありません。

分身とも言える辞書に、自分の名を潜ませることで、それに命を吹き込んだ、とは考えすぎでしょうか。

それとも、大切な宝物に名前を書くような、愛おしい気持ちこそうさせたのでしょいか。

もちろん真実は東伍自身しか知り得ません。

さて、七つ星の秘密としてここま  
で推論を述べてきました。  
もしお許し願えるのなら、将来、  
新説が出るまでの間、これを有力な  
候補としていただけたら幸いです。

二〇二〇年一〇月二一日

第十九回研究発表会

発表者Ⅱ友の会会員・天文部 廣田正博



出典:Aucfree

完